

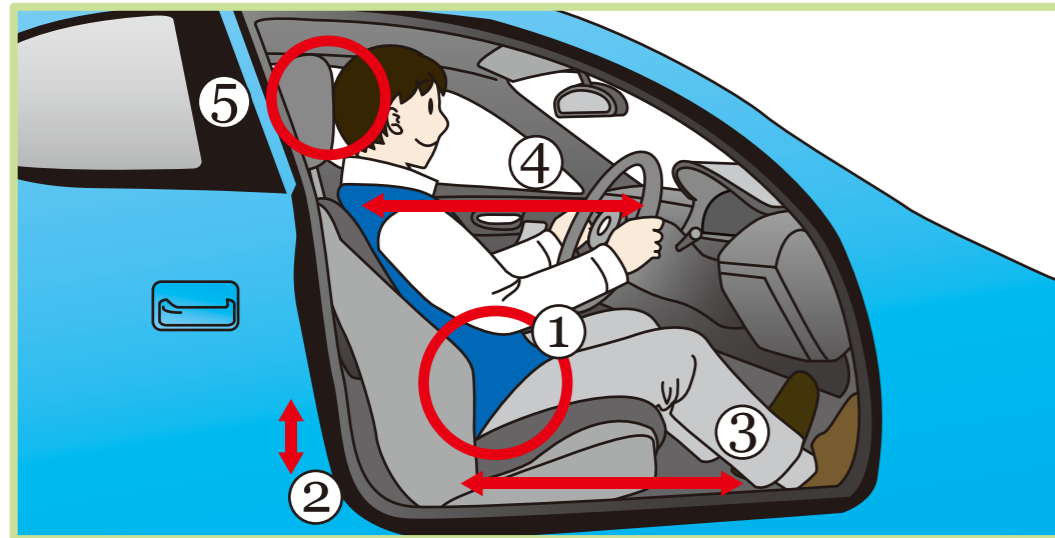
01 雪道走行の基本

これからの季節、雪道での走行が増えていきますので、雪道での走行についてご紹介します。

運転技術編

正しい姿勢

安全運転の基本は、正しい運転姿勢から。



シートベルトも
正しく着用！

ポイント

- ① シートに深く腰掛ける
- ② シートポジションをなるべく高くする
- ③ 膝がしっかりと曲がる程度に前後のシートポジションを調整する
- ④ シートバックとハンドル位置を合わせる
- ⑤ ヘッドレストは頭頂部と合わせる

急ブレーキ・急ハンドルはNG

急ブレーキや急ハンドルといった、「急」の付く運転動作はやめましょう。

ポンピングブレーキを使う

ポンピングブレーキを使い、ゆっくり減速、目標より少し手前に止める感じで。

車間距離は長め

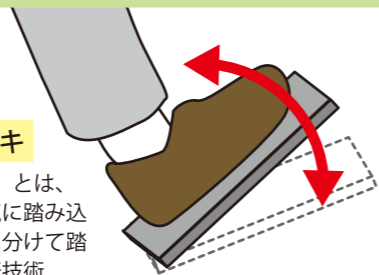
車間距離は通常よりも長めに取るようにします。

停止線より手前で止まる

交差点では、他車が大回りしてくるのを避ける為に、停止線より手前で止めましょう。

ポンピングブレーキ

「ポンピングブレーキ」とは、フットブレーキを一気に踏み込むのではなく、数回に分けて踏み込んで停止する運転技術



路面等の状況

新雪	圧雪	シャーベット	アイスバーン
<ul style="list-style-type: none"> ● やわらかい雪質 ● 常に路面の上に覆いかぶさる <p>○ 雪を踏みしめながらスピンせずに進む</p> <p>○ アイスバーンの上に新雪が覆いかぶさっている場合は滑りやすい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 雪が踏み固まった状態 ● 走りやすいが、下にアイスバーンが隠れている場合 <p>○ 轍がでやすいが、ハンドルをとれやすい</p> <p>○ 走りやすいが、下にアイスバーンが隠れている場合があるので、運転速度の上がり過ぎに注意</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 水分を多く含んだシャーベット状の雪路 ● 走りにくい <p>○ シャーベット下にアイスバーンが隠れている場合があり、スリップに注意</p> <p>○ 夜の冷込みでシャーベットのまま凍結すると粗い凹凸になり、ハンドルがとれやすい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 摩擦抵抗が小さい為、大変滑りやすい <p>○ タイヤへの負荷が大きい、または速度が高くなると滑りやすくなる</p> <p>○ 急制動や回転数の急激な変化は禁物。できるだけ一定速度で、タイヤを確実に転がしながら進む</p>

雪道の路面状況は刻々と変化する
雪道の路面状態は刻々と変化しますから、怖さを感じたら速度を落しましょう。

橋の上は凍りやすいので注意
橋の上は凍りやすいので、予め手前で減速しておきましょう。

視界の悪化時は低速で止まれる準備

視界が悪い時は低速で、いつでも止まれる準備をしておきましょう。さらに視界が悪化したら、無理せず安全な場所に止めて天候の回復を待ち、その旨配車に連絡しましょう。また、納車予定時刻は、乾燥路よりも遅めの時刻で入力しましょう。

早めの点灯と方向指示

ヘッドライトは早めの点灯、早めの方向指示を心掛けて、他車に自車を見つけやすくしましょう。

回送ルートはドライバーズマニュアル「冬季道路マップ」を参照しよう！

回送ルートについては、ドライバーズマニュアルに記載の「冬季道路マップ」(P.86)を参照してください。記載が無い時期の版をお持ちの方は、営業所にお申し出ください。

02 雪道の走り方あれこれ

走行時の注意点をまとめました。意識して回送を行うとよいでしょう。

雪道でのブレーキ 時速 40kmからの制動距離



雪道でブレーキを踏む時は、タイヤが真直ぐな状態でしっかり踏むようにします。また、普段より早めのブレーキを心掛け、荒っぽいペダル操作は避けましょう。

スリップ時の対処方法

アクセルやブレーキの踏み過ぎ、ハンドルの切り過ぎといった、「過ぎ」を避けるようにします。また、ブレーキを踏んで横滑りしたら、ハンドルを中立に戻し、ブレーキを緩めます。

轍に沿った運転

ハンドルを取られたら、アクセルを戻すか、ゆっくりブレーキを踏んで減速するようにします。また、車線変更時や右左折時に轍を乗り越えられなかったら、他車が通った場所を探します。



轍の凍結に注意
冷込みで日陰部分の凍結の可能性有

車間距離

従来の倍以上の車間距離を取りましょう。いつも以上に路面や周囲の状況変化に気を遣い、早め早めの危険察知を心掛け、それに対応できる余裕を持つようにしましょう。

